

神奈川県	都道府県	国立・公立・私立	
学校名 M小学校		担当者氏名 F先生 H先生	

第1学年

◆数詞を唱える練習 ◇ねらい： 数詞を確実に唱えられるようにする。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
<p>○大型百玉そろばんを使って、全員で一緒に唱える。 ・玉を動かす速さを変えると、おもしろい。</p> <p>○最初は1～10で止める。</p> <p>○2とび、5とび、10とび等いろいろなバリエーションで唱える。</p> <p>○バックもやってみる。</p> <p>○一人用を持たせて、みんなで一緒に唱える。</p>	<p>◎注視の練習にもなる。</p> <p>◎「もっと、やって」と、やる気が出てくる。</p> <p>◎手と目と音と声で、確認することができる。</p>
※短い時間でもさっとできるので、毎朝でも毎時間の始めでも、手軽に繰り返すことができる。	

◆数量の大きさ ◇ねらい： 数量の大きさを表すのに数を用いることを理解する。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
<p>○数字カードを見たり数を聞いたりして、その数だけ百玉そろばんを入れる。</p> <p>○その後、大型百玉そろばんでは答え合わせをする。</p>	<p>◎動かし易い。</p> <p>◎音がすることで、ゲーム感覚で学習することができる。</p>
※操作活動を入れることで、しっかりと確認することができる。	

◆おおい すくない ◇ねらい： 1～10の数について、多少や大小を比較することができる。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
<p>○2段使って、数を入れ、「おおい、すくない」を判断する。</p>	<p>◎上下2段に数を並べることで、数の多少が視覚的に分かりやすくなる。</p>
<p>※操作活動を入れることで、視覚的に確認することができる。</p> <p>※百玉が固定されているので、比べやすい。</p>	

◆のこりはいくつ ちがいはいくつ ◇ねらい： 求補・求差のばあいについて、減法の意味を理解する。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
○比較する2量を、百玉そろばんに2段に分け、入れる。 ○2量を1対1対応させそろばんを動かし、どちらが多いか操作して考える。	◎文章問題を読みながら、そろばんを操作できる。 ◎この単元で、操作がパターンかできる。操作の仕方を獲得すると、児童は自分で問題を読んで、操作をしながら立式したり答えを求めたりすることができるようになる。
※「どちらがいくつ多いか」の問題で、2量の違いを視覚的に捉えられることができる。 ※1対1対応の操作がしやすい。 ※1対1対応させながら百玉そろばんを操作させることで、数が多い方が残り違いが一目で分かる。	

今後の予定

◆10より おおきい かず ◇ねらい： 20までの数の構成を和や差でとらえることができる。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
○13を百玉そろばんで作ってみよう。 ・10と3を上下に入れる。 ○15から3をひいてみよう。	◎上下2段に数を並べることで、数の多少が視覚的に分かりやすくなる。
※操作活動を入れることで、視覚的に確認することができる。 ※百玉が固定されているので、比べやすい。 ※百玉が縦になるように、そろばんを置いて、位を意識させる。	

◆ふえたり へったり ◇ねらい： 3口の数の加法の式の意味・減法の式の意味・加減混合の式の意味とその計算の仕方を理解し、その計算ができる。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
○動作化等の後に、百玉そろばんで式を視覚化する。	◎
※操作活動を入れることで、視覚的に確認することができる。 ※百玉はバラバラにならないので、連続して増やしたり減らしたりが簡単にできる。	

◆たしざん ○ねらい： 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法について理解する。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
○2段使って、数を入れ、計算の仕方を考える。 ○計算の仕方を説明する。 ○百玉そろばんを縦型に置き、十の位と一の位を意識させる。	◎
※百玉が固定されているので、数を置きやすい。 ※操作が簡単なので、多様な考え方が出やすい。	

◆数量の大きさ ◇ねらい： 数量の大きさを表すのに数を用いることを理解する。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
○数字カードを見たり数を聞いたりして、その数だけ百玉そろばんを入れる。 ○その後、大型百玉そろばんで答え合わせをする。	◎動かし易い。 ◎音がすることで、ゲーム感覚で学習することができる。
※操作活動を入れることで、しっかりと確認することができる。	

◆ひきざん ◇ねらい： 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法で、計算する方法を理解する。	
実践の様子・実践ポイント	成果（児童の反応、期待など）
○題意を読み取り、11～18の被減数を10といくつの形で、そろばんに置く。 ○計算方法を百玉そろばんを操作しながら考える。 ○百玉そろばんを縦に使い、十の位・一の位を意識しながら計算し、筆算で計算する考え方につなげる。	◎
※玉をすぐにとったり戻したりできるので、計算の方法を試行錯誤しながら考えることができる。 ※10ずつ1段にセットされているので、10のまとまりを意識しやすい。 ※そろばんを縦に置くことで、筆算の仕組みが視覚的に分かる。	